

## 参考資料

- 1 第3次計画進捗状況
- 2 計画策定経過
- 3 群馬県情報化推進懇談会構成員
- 4 用語解説

# 1 第3次計画進捗状況

大分類	小分類	項目	現状	目標	実績	達成率
第2章の大項目	第2章の小項目		(平成22年度)	(平成28年度)	(平成27年度)	(%) (H27/H28)
1 誰もがICTの利便性を実感できる環境の整備						
(1) 県民の情報活用能力向上						
		インターネット人口普及率	77.3 %	85.0 %	82.8 %	97.4
		群馬県障害者情報化支援センター利用者数	2,050 名	2,200 名	883 名	40.1
(2) 環境整備						
		超高速ブロードバンド世帯カバー率(利用可能エリア内世帯割合)	97.49 %	100 %	99.93 %	99.93
		携帯電話エリアカバー率(人口カバー率)	99.92 %	100 %	99.99 %	99.99
2 人と人を結ぶICTの利活用						
(2) 医療・福祉・子育て						
		遠隔医療システム(画像診断等)の導入状況	18 病院 (平成20年度)	65 病院 (平成27年度)	71 病院	109.2
(4) 教育						
		授業中にICTを活用して指導できる教員割合	60.8 %	100 %	73.9 %	73.9
(5) 行政手続等の改善						
		電子申請等受付システム 利用件数(年間)	8,602 件	13,800 件	16,702 件	121.0
		手続数(累計)	693 件	1,000 件	1,092 件	109.2
3 最新の技術を活かした情報システムの最適化						
(1) 情報システムの見直し						
		電子納品システム利用率	—	100 %	86.8 %	86.8
		GP-WAN内県警業務サーバの統合率	—	100 %	78.0 %	78.0
(2) 内部管理業務の事務効率化						
		教育情報通信ネットワーク通信回線	高速	超高速	超高速	100.0
合 計						92.3

## 2 計画策定経過

平成 28 年 7 月 28 日 第 1 回群馬県情報化推進連絡会議  
8 月 10 日 第 1 回群馬県情報化推進懇談会  
10 月 7 日 第 2 回群馬県情報化推進連絡会議  
11 月 1 日 第 2 回群馬県情報化推進懇談会  
12 月 16 日 パブリック・コメント募集（～平成 29 年 1 月 15 日）  
平成 29 年 1 月 30 日 第 3 回群馬県情報化推進懇談会

## 3 群馬県情報化推進懇談会構成員

朝岡	伸江	セレナーデ 代表
砂賀	佳美	有限会社バージョンアップ 取締役
細井	克悦	NTT 東日本 群馬法人営業部 営業担当部長
松下	弘明	一般社団法人群馬県情報サービス産業協会 会長
松本	浩樹	前橋工科大学大学院 准教授
座長	森谷 健	群馬大学社会情報学部 教授

(五十音順)

#### 4 用語解説

索引	用語	用語解説	掲載頁
A	A I	Artificial Intelligence の略で、人工知能のこと。	8
I	I C T	情報通信技術 (Information & Communications Technology の略)	1
	I o T	Internet of Things の略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。	7
L	Lアラート	安全・安心に関わる公的情報など、住民が必要とする情報が迅速かつ正確に住民に伝えられることを目的とした情報基盤。地方自治体、ライフライン関連事業者など公的な情報を発信する「情報発信者」と、放送事業者、新聞社、通信事業者などその情報を住民に伝える「情報伝達者」とが、この情報基盤を共通に利用することによって、効率的な情報伝達が実現できる。	26
S	S N S	Social Networking Service (Site) の略。インターネット上で友人を紹介しあって、個人間の交流を支援するサービス (サイト)。誰でも参加できるものと、友人からの紹介がないと参加できないものがある。	5
W	W i - F i	無線 LAN の標準規格である「IEEE 802.11a/b/g/n」の消費者への認知を深めるため、業界団体の WECA (現:Wi-Fi Alliance) が名付けたブランド名。	15

索引	用語	用語解説	掲載頁
ア	アプリ	アプリケーションの略。OS上で作業の目的に応じて使うソフトウェア。パソコンではワープロソフト、表計算ソフト、ウェブブラウザ、メールソフト、画像編集ソフトなどが、スマートフォンやタブレットではコミュニケーション、動画・音楽視聴、地図・ナビゲーション、電子書籍、ネットショッピング、ゲーム用のアプリなどが代表的。	33
オ	オープンデータ	機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータであり、人手を多くかけずにデータの二次利用を可能とするもののこと。	7
カ	仮想化技術	ソフトウェア技術等の拡張により、コンピュータやハードディスクなどを物理的構成に拠らず柔軟に分割したり統合したりする技術のこと。1台のものを複数台であるかのように利用することができる。	15
キ	共聴施設	受信環境の良い場所に設置したアンテナで受信したテレビ放送電波を複数の世帯に分配し、共同で視聴する施設のこと。	24
ク	クラウドコンピューティング	今までのように自分でソフトウェアやデータなどを保存・管理するのではなく、ネットワーク上のサーバー群（クラウド（雲））にあるデータサービスやインターネット技術等を「どこからでも、必要な時に必要な機能だけ」利用することができる新しいコンピュータ・ネットワークの利用形態。	6
	クラウドサービス	インターネット等のブロードバンド回線を経由して、データセンターに蓄積されたコンピュータ資源を役務（サービス）として、第三者（利用者）に対して遠隔地から提供するもの。	3

索引	用語	用語解説	掲載頁
コ	コンテンツ	文字・画像・動画・音声・ゲーム等の情報全般、またはその情報内容のこと。電子媒体やネットワークを通じてやり取りされる情報を指して使われることが多い。	32
サ	サイバー空間	コンピュータやネットワークの中に広がるデータ領域を、多数の利用者が自由に情報を流したり情報を得たりすることができる仮想的な空間のこと。	8
	サイバー攻撃	インターネット等を利用して、外部から標的のコンピュータやネットワークに不正に侵入してデータの詐取や破壊、改ざんなどを行ったり、標的のシステムを機能不全に陥らせること。	10
	サイバー犯罪	インターネット等の高度情報通信ネットワークを利用した犯罪やコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪等、情報技術を利用した犯罪。	10
シ	情報セキュリティ	情報の機密性・完全性・可用性を維持すること。	1
	情報セキュリティポリシー	組織における情報セキュリティを確保するための基本方針のこと。	38
	情報モラル	情報を扱う上で必要とされる考え方や態度。	1
ス	スマートフォン	従来 of 携帯電話端末の有する通信機能等に加え、高度な情報処理機能が備わった携帯電話端末。従来 of 携帯電話端末とは異なり、利用者が使いたいアプリケーションを自由にインストールして利用することが一般的。	1
ソ	ソーシャルメディア	インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称。	3
タ	タブレット端末	液晶ディスプレイなどの表示部分にタッチパネルを搭載し、指で操作する携帯情報端末の総称。	1

索引	用語	用語解説	掲載頁
チ	超高速ブロードバンド	FTTH 及び下り伝送速度 30 Mbps 以上のケーブル・インターネット。	23
テ	テレメータシステム	自動遠隔測定装置を使用したシステム。	14
	テレワーク	ICT を活用して、場所と時間を有効に活用できる柔軟な働き方。企業等に勤務する被雇用者が行う雇用型テレワーク（例：住宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス等での勤務）と、個人事業者・小規模事業者等が行う自営型テレワーク（例：SOHO、住宅ワーク）に大別される。	28
ト	統合型地理情報システム	ベースマップ（白地図）に各種のデータを重ねて多目的に利用できるようにしている地理情報システム。	40
ヒ	ビッグデータ	利用者が急激に拡大しているソーシャルメディア内のテキストデータ、携帯電話・スマートフォンに組み込まれた GPS（全地球測位システム）から発生する位置情報、時々刻々と生成されるセンサーデータなど、ボリュームが膨大であるとともに、構造が複雑化することで、従来の技術では管理や処理が困難なデータ群。	7
	標的型メール攻撃	特定の組織のユーザーに対してコンピュータ・ウィルスが添付された電子メールを送信するサイバー攻撃。	38
フ	不正アクセス	ID・パスワード等により利用が制限・管理されているコンピュータに対し、ネットワークを経由して、正規の手続を経ずに不正に侵入し、利用可能とする行為。	37
リ	リテラシー	その分野における知識、教養、能力。	1
ワ	ワンストップサービス	一度（一箇所）の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられるようにするサービス。	9